

自己実現への道

第44回 ― 第1章 能力の走行距離は無限大に伸びる(その6) ―

●「辛抱すれば出番は必ずまわってくる」・・・「事の終わりは、その初めにまさり、忍耐はうぬぼれにまさる。軽々しく心を苛立ててはならない。苛立ちは愚か者の胸に留まるから」(聖書:伝道者の書 7・8-9)

この言葉を読んで冷静になろう。順番が来るのを待とう。きっとまたチャンスは巡ってくるのだ。

納得のいかない敗北を喫して心を傷つけられた後で、我慢強く踏みとどまるためには強い信念が必要である。

ゲームに勝てないからといって子供のようにすぐに投げ出してしまうようではダメだ。分別を持って怒りを抑えよう。消極的な考えで物事に対処して、自滅への道へ落ち込まないように努力しようではないか。人生においては、得られるはずのものが、直前に逆転して得られないこともよくあることだ。しかし、「最後まで頑張る人を神は裏切らない」。「忍耐」こそ勝利のための最も重要な要素なのだ。

●「ことに破れたら態勢を立て直すだけだ」

軍事戦略で重要な用語に「リグルーピング(regrouping):再編成、態勢の立て直し」という言葉がある。企業では不採算部門の切り捨てや、リストラがそれに相当する。リグルーピングはダイナミックで積極思考型の行動である。過去の失敗を思い出していつまでもよくよするのはいやめて、新しいアイデアに向けて思考を集中しよう。

考えつく最善のアイデアを集め、態勢を立て直し、もう一度力強く立ち向かっていかなければならない。信念をもってぶつかれば、山をも動かすことができる。人生はなかなか思うようにはいかないものだ。何回も失敗し、何回も苦味をかみしめなければならぬ。だからしくじったら、やり直すのだ。過去について悔やむのはやめよう。過去はもう過ぎ去ったのだ。「やる」と決めたら、真っ直ぐ前に進むのみである。

●「困難」の谷間に「経験」という橋をかける

強靱で耐火性のある合成木材がどのようにして作られるか。1 インチの暑さの単板に接着剤を塗布して、他の同じ厚さの単板に重ねて加圧する。その上にさらに何枚もの単板を次々に積み重ねて加圧してゆく。このようにして作られる厚さ3フィートの合成木材製の梁材は、支柱無しで約100フィートの径間上に掛け渡すことができる。驚くことに、合成木材の梁材は鋼鉄製のものよりも強く、また耐火性にも優れている。火焰が外部をなめても、材質に全く空洞がないから、内部に浸透することができない。もし、空洞があって、火焰が侵入すれば酸素の供給が続くからメラメラと燃え上がるはずである。一方、鋼鉄製の梁材は耐火プラスターで巻いておかないと、燃え上がる壁が放つ高熱によって溶けてしまう。

山をも動かす信念は、簡単にえられるものではない。経験をひとつひとつ積み重ねていって、得られるものである。歳月を経て積み重ねた経験は、感動と精神で強化された梁となって、人生で遭遇する深い割れ目や、ぞっとするような渓谷に架け渡すことができる。

人生の経験を積み重ねて、人間性を強化し、未来を恐れる必要のない者になろう。

〈MIKO〉

参考文献: Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より